

岩見沢市過疎地域持続的発展市町村計画（素案）に対する 意見募集（パブリックコメント）結果

（意見募集期間 令和8年1月9日（金）から1月29日（木）まで）

- 1 提出者数 4人
- 2 項目別の意見数

区分	意見数
○ 計画策定にあたって	件
第1 基本的な事項	2件
第2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成	1件
第3 産業の振興	1件
第4 地域における情報化	件
第5 交流施設の整備、交通手段の確保	6件
第6 生活環境の整備	件
第7 子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進	1件
第8 医療の確保	件
第9 教育の振興	2件
第10 集落の整備	1件
第11 地域文化の振興等	件
第12 再生可能エネルギーの利用の推進	件
その他	2件
計	16件

岩見沢市

岩見沢市過疎地域持続的発展市町村計画（素案）に対する意見募集（パブリックコメント）結果

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
1	第5 交流施設の整備、交通手段の確保	50代	車両は小さくてもいいし、有料で地域バスを運行してほしい。 自分もいつか買い物難民になると思うから。また、幌向駅や高速栗沢バス停まで、運行して欲しい。 栗沢のイベントに来る人も増やしたい。	公共交通につきましては、本市では、JR 岩見沢駅等を接続点として、既存の路線バスやデマンド型乗合タクシー等を組み合わせた交通ネットワークにより、既に市内全域をカバーしております。 栗沢地域のイベントへの誘客につきましては、今年度、くりさわ農業祭において JR 室蘭線を利用して来場された方への特典提供を行うなど、公共交通機関の利用促進と連携した取組を実施したところですが、今後も、イベント内容の見直しや、地域の特性に応じて公共交通との連携や情報発信の工夫により、来訪者が訪れやすい環境づくりに努めます。
3	第5 交流施設の整備、交通手段の確保	50代	室蘭本線を IC 対応にして欲しい	JR の IC への対応は、小銭の準備や両替の手間がなく、スムーズな改札の通過といった、利用者の利便性向上に寄与するものと認識しておりますが、JR 北海道に確認したところ、需要に対する費用対効果の面から、札幌圏以外では導入が進んでいないのが現状であり、室蘭本線においても導入は予定していないとお聞きしています。
4	その他	50代	公衆浴場の復活（サウナ付き）	栗沢福祉会館の浴場は、入浴設備を持たない住民のための施設として昭和 62 年に旧栗沢町において整備されましたが、その後、自宅での入浴設備の整備が進み、利用者も著しく減少していることから理由に、市民センターの解体に合わせ、平成 30 年 3 月末で廃止としたところですが、今後におきましても、公共施設のあり方については、ニーズと費用対効果を踏まえた上で検討してまいります。
5	第9 教育の振興	50代	トレーニングスペースの充実 岩見沢まで行かなくても、受けられるトレーニング教室など	栗沢地域には、体育施設として栗沢 B&G 海洋センターがございますが、トレーニングスペースの充実やトレーニング教室の開催など、施設環境の充実に向けて、指定管理者と今後検討してまいりたいと考えております。

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
6	第9 教育の振興	50代	くりさわ学舎に特色を持たせて、若い世代の人口増を狙って欲しい	<p>くりさわ学舎では、義務教育学校として、9年間を見通した教育の中で育てたい資質・能力の実現に向けた教育課程の編成を進めるとともに、生活科や総合的な学習の時間を中心に、地域資源を活かした「くりさわ学舎」ならではの探究的な学びの構築に取り組む方針を示し、学校の魅力化を進めているところです。</p> <p>一方で、教育環境の充実のみをもって、直ちに若い世代の人口増や転出抑制が実現するものではなく、就業の場や住環境、子育て環境、地域コミュニティなど、暮らしを支えるさまざまな要素が相互に関係しているものと認識しております。そのため、くりさわ学舎における特色ある教育の取組を、地域づくりの重要な要素の一つとして位置づけながら、他の施策とも連携させ、若い世代が「住み続けたい」と感じられる地域づくりにつなげていくことが重要であると考えております。いただいたご意見につきましては、今後の教育施策および過疎地域対策を検討する上での参考とさせていただきます。</p>
7	第5 交流施設の整備、交通手段の確保	50代	イオンまでのバスの運行 平日、月に数回でもいいと思う	<p>イオン岩見沢店への移動について、「平日でも月に数回バスがあれば助かる」というご意見は、日常生活の不便さを踏まえた声であると受け止めております。</p> <p>一方で、将来にわたり持続可能な公共交通を確保するためには、岩見沢駅や岩見沢ターミナルといった交通拠点を中心とした乗り継ぎによる移動を基本として考えております。そのため、栗沢地区からイオン岩見沢店への移動につきましても、JR等で岩見沢駅を経由して、路線バスへ乗り継いでいただくことを基本としています。</p> <p>なお、無料送迎バス（シャトルバス）もございますが、こちらはイオン岩見沢店が主体となり運行しております。</p>
8	第5 交流施設の整備、交通手段の確保	20代	<p>【室蘭本線の車両をIC対応にして欲しい】</p> <p>【栗沢駅に改札？を設置して欲しい】</p> <p>当方、栗沢町住んでいるので室蘭本線をよく利用するのですが、基本モバイル Suica（電子決済）を利用しており、</p>	<p>JRのICへの対応は、小銭の準備や両替の手間がなく、スムーズな改札の通過といった、利用者の利便性向上に寄与するものと認識しておりますが、JR北海道に確認したところ、需要に対する費用対効果の面から、札幌圏以外では導入が進んでいないのが現状であり、室蘭本線においても導入</p>

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
			極力現金を持ち歩きたくないのと、本数が少ないのに帰路で電車を利用する際、時間ギリギリで切符を買うことで焦るのが煩わしいです。そして栗沢町でイベントを行う際、岩見沢外の方 を呼びにくい上、初めて室蘭本線に乗った知り合いのほとんどの方が事前に乗り方がわからず不安だったと言っていたので、改善されたらどんどん栗沢に人を呼ぶことがストレスじゃないのと、車を持たない高齢者も出かけるきっかけになると思っております。	は予定していないとお聞きしています。 改札設置につきましても、JR 利用者の減少による営業収支の悪化により、全道的に無人化が推進されておりますことから、栗沢駅への改札設置は、難しいものと認識しております。
9	第5 交通施設の整備、交通手段の確保	不明	自家用車を手放した高齢者のために、栗沢町内を走るデマンドバスの必要性を感じます。 北村のように、栗沢でもスクールバスに一般住民の混乗を可能にし、合わせて農協と病院（歯科含む）にも停車してもらえると、たとえ片道だけでも助かります。 大阪府能勢町のように、住民の自家用有償旅客運送システムを採用するのも一案かと思えます。	栗沢地域におきましては、一部地域を除き、既にデマンド型乗合タクシーを運行しており、栗沢市街地の主要な交通拠点や商業施設等への移動が可能となっております。 また、自家用有償旅客運送につきましても、同地区内では JR や路線バス等が運行している現状を踏まえ、まずは既存の公共交通網の確保が重要であると考えております。
10	第1 基本的な事項	不明	岩見沢市まちなか交流活性化事業のように、市民（地域住民）も、市街地活性化に取り組めるようにしてほしい。 P27に「商工会」にイベント等の運営補助とあるが、これを市民も対象にした「まちなか活性化事業補助」とし、市民自らが街の賑わいを創出する情報発信やイベント企画、人材育成ができる方が過疎化対策に有効と考える。	栗沢地域におきましては、まちなか交流活性化事業の適用外となりますが、地域住民の皆様が市街地活性化の取組みご参加いただくことは、まちづくりにおいて大変重要であると認識しております。ご提案につきましては、市役所栗沢支所や栗沢地区町会連絡協議会、いわみざわ商工会との情報共有を図るとともに、引き続き、地域にお住まいの皆様のご意見も伺いながら、どのように栗沢地域における市民参加のまちづくりを推進できるかを検討してまいりたいと考えています。

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
11	第1 基本的な事項	不明	<p>まず生涯学習の拠点として図書館が欠かせないことは言うまでもない。文科省「これからの図書館像」には、オ「各図書館の充実が必要」で、カ「すべての図書館がレファレンスサービスを行うことが求められており、そのためには優秀な司書が必要である」「図書館法では時事に関する情報や参考資料を作成して利用者に紹介することを定めている。社会が多くの課題を抱えている現在、この点をもっと重視し、取り組むべきである」ク「<u>中学校区などの生活圏に図書館を整備することが必要である</u>。人口当たりでなく可住面積当たりでの図書館の整備をめざすことも必要である」と書かれている。図書館は過疎地における課題解決のための住民支援を積極的に行うべきであり、身近な場所にこういう役に立つ図書館があることは、過疎地における重要な資源となり、街の魅力ともなる。合併により施設が増えたため維持費を減らす、という観点からだけでなく、過疎地をどうやったら活性化できるのか、魅力的で住み続けたい街になるのかという観点から考える視点が必要である。</p>	<p>生涯学習の拠点として図書館が重要な役割を担っていることについては、市としても十分認識しております。文部科学省「これからの図書館像」において示されている、各図書館の機能充実、レファレンスサービスの充実や司書の専門性の重要性、さらには生活圏に身近な図書館の整備の必要性といった考え方は、過疎地域における図書館の在り方を検討する上で、十分参照すべきものと考えており、特に、過疎地域においては、図書館が単なる「本を貸す場所」にとどまらず、地域課題の解決や住民の学びを支援する拠点として機能する場であるとともに地域にとって貴重な資源であり、まちの魅力の一つであると考えております。</p> <p>一方で、本市においては、市町村合併以降、人口は減少するも公共施設の数は減少しておらず、将来にわたる持続的な施設運営の観点から、施設の在り方や機能の見直しが必要となっている状況もございます。こうした中で、単に維持管理費の削減のみを目的とするのではなく、過疎地域の活性化や、住み続けたいと思える地域づくりにどのように寄与できるかという視点を持ちながら、図書館を含む公共施設の役割や機能について検討を進めてまいります。</p>
12	第2 移住・定住・ 地域間交流 の促進、人材 育成	不明	<p>情報を共有しながら地域の将来像をともに描く、市民参加による地域経営の視点とあるが、そのためには「議会、行政が市民との対話を活発にする」ことが必要と考える。このパブリックコメントも周知の仕方や、回答方法などを住民、特に高齢者から集められるようにもっともっと工夫が必要で、「地域の将来像をともに描く」ことができていない。</p> <p>「自主的、主体的にまちづくりに参加できる仕組み」をどのように構築するのか明示してほしい。</p>	<p>ご指摘のとおり、パブリックコメントは市民の皆様からご意見を伺う重要な制度であるため、その実施に先立ち、昨年10月に栗沢地域の住民を代表する団体である栗沢地区町会連絡協議会への説明及び意見聴取を行い、その後、11月には市議会総務常任委員会におきまして、議員の皆様にご説明をさせていただいたところです。一方で、パブリックコメント自体の周知方法や意見提出の手段等については、高齢者をはじめとする方々の声が十分に反映されにくいという課題があるものと受け止めております。その結果として、「地域の将来像をともに描く」という趣旨が十分に実感されにくい状況が生じているとのご指摘について、真摯に受け止めております。</p> <p>今後は、広報の工夫や地域での説明・対話の機会の充実、多様な意見提</p>

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。(明らかな誤字等と判断されるものを除く。)

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
				<p>出手段の確保などにより、多くの市民の皆様が参加しやすい環境づくりに努めてまいります。</p> <p>また、「自主的、主体的にまちづくりに参加できる仕組み」については、地域の実情や市民の関心に応じて育てていく必要があると考えております。今後は、地域活動や市民主体の取組みと連携しながら、市民が気軽に意見を表明し、参画しやすい機会の在り方について検討してまいります。</p>
13	第3 産業の振興	不明	<p>過疎地域を持続させるために、まさしくこのコミュニティサービスが必要で行政サービスでは賄えないところをいかに補っていくかが、住み続けられるかどうかの分かれ目になると考える。コミュニティビジネスの育成についての計画を記してほしい。</p>	<p>過疎地域を持続させていくためには、行政サービスのみで地域のすべてを支えることには限界があり、地域住民や民間主体によるコミュニティサービスが重要な役割を担うとのご指摘については、市としても同様の認識を持っております。日常生活の支援や見守り、地域交通、交流の場づくりなど、きめ細かな取組みについては、地域の実情をよく理解している主体に担っていただくことが、地域づくりにつながるものと考えております。</p> <p>こうした中で、地域課題の解決と事業性を両立させるコミュニティビジネスは、過疎地域において行政サービスを補完し、地域の持続性を高める有効な手段の一つであると認識しております。</p> <p>現時点において、特定の事業内容をあらかじめ定めるものではありませんが、地域ニーズの把握や人材の掘り起こし、関係団体との連携などを通じて、コミュニティビジネスの芽を育てる環境づくりに取り組むとともに、育成・支援の在り方について検討を進めてまいります。</p>
14	第5 交通施設の整備、交通手段の確保	不明	<p>特に高齢者の足として栗沢市街地までのオンデマンド交通を希望したい。高齢者の地域社会への参加は、孤立を防ぎ、健康や生活の質を支えるために非常に大きな要素となる。</p> <p>栗沢町のスクールバスも市民を乗せてほしい。</p> <p>室蘭線が維持できない場合、高校生の通学が困難になる。そうなる子育世代の移住、定住に大きなマイナス要因であり、代替手段なども含め検討することを計画に入れてほしい。</p>	<p>栗沢地区におきましては、現在、JR・路線バス・デマンド型乗合タクシー（一部地域を除く）が運行しており、地域の移動手段は確保されている状況にあります。</p> <p>また、JR室蘭線は、旅客輸送に加え、北海道の物流を担う重要な幹線であることから、今後も引き続き関係機関と連携し、路線の維持に取り組んでまいります。</p>

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。（明らかな誤字等と判断されるものを除く。）

	項目	属性	意見・提案・感想 等	市の考え方
15	第7 子育て環境の 確保、高齢者 等の保健及び 福祉の向上及 び増進	不明	栗沢町内で健康づくりに取り組める工夫が必要。岩見沢市街地までわざわざ出向かなくても、近くで気軽に取り組むことができないと健康づくりは無理。	市では、住み慣れた地域において健康づくりができるよう、栗沢町地域におきましても希望のあった町内会や老人クラブ等に保健師や管理栄養士、歯科衛生士等が出向き健康講座を開催するほか、各種健康診査を受診できる環境を整えており、また各町内会から推薦された保健推進員の企画による地域健康講座も開催しています。 さらに地区担当保健師が健康相談や栄養相談で家庭訪問を実施する体制を整えるとともに、地域で自主的に介護予防に取り組むことを目的とした「通いの場」の活動を支援するなど様々なサポートが受けられるよう取り組んでおります。
16	第10 集落の整備	不明	栗沢市街地にも推進員を配置してほしい	地域おこし推進員は、地域に寄り添いながら課題解決や地域の活性化などに取り組む重要な役割を担っており、その配置についてのご提案は、市としても一つの選択肢として受け止めております。 本市ではこれまで、地理的条件や人口動態、地域課題の特性などを踏まえ、東部丘陵地域に推進員を配置してまいりました。 地域おこし推進員の配置にあたっては、取り組むべき課題が地域内で共有されていることに加え、活動を支える地域の受け入れ体制や関係者との連携が必要であり、こうした環境が整うことが、推進員の活動において重要と考えております。 栗沢地域への配置につきましては、現時点で具体的な計画はございませんが、地域の課題やニーズを踏まえつつ、より具体的な整理・検討を進めるとともに、受け入れ体制の在り方などについて栗沢支所などの関連部署と協議を行うなど、配置の可能性について検討してまいります。いただいたご意見につきましては、今後の地域おこし推進員の活用を検討する上での参考とさせていただきます。

※「意見・提案・感想 等」については、原則として原文のまま掲載しています。(明らかな誤字等と判断されるものを除く。)